

# 社内木鶏感想用紙

2024 年 6 月 24 日

6 月号

名前

タイトル: 人生のハードルを握り扉を開けられるのは自分だけ

## ①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

採用市場の変化や働き方改革の流れがきっかけで、ある顧問先様が人事評価制度の導入を決定され、その監修に参加を求められた。税理士としては専門外の分野だが、私の目標は「経営の役に立つ税理士になる」なので自分なりに研究して参加させていただくことにした。人事評価制度では、主に2つの事を決めると理解している。「会社(社長)が求める社員像」と「待遇(年収)」の2つだ。一つ目の「会社が求める社員像」については、仕事に取り組む上での規範を明文化することや企業文化の醸成などの効果が期待できる一方で、それら大切なことを射貫く言葉(フレーズ)がなかなか浮かばないという壁にぶつかる。木鶏会で人間学を学ぶことなこの作業を不要にする効果があるように感じる。二つ目の待遇については、グッドプレーヤーだが育成に向いていない方の処遇に悩む。

そんな中、今回の井村屋さんの掲げる「期待する人材像」や中島会長の談話は、人事評価制度を考えるうえでとても示唆に富んだ内容だった。

井村屋さんの経営理念は、情熱+利他の精神+前に進める人間 だそうだ。私は、特に3番目の「前に進む」という表現が好きだ。「これを発展」とか「革新」と言われるととてもハードルが高い印象を受けるが「前に進む」という言葉からは主体性だったり、ナイスミスの許容といったニュアンスを感じる。

中島会長の談話は、会長が歩んでこられた人生経験や実行されてきたご努力の数々に感服するばかりだが、特に印象的だったのは、「この人の強みはなにか。どうやって強みを発揮していくか。それを考えるだけで楽しくてしょうがない。」という箇所だ。木鶏会の美点凝視がとても合理的であることが理解できた。

今後、社員面談への参画、人事評価制度導入などの仕事に携わるときには、社員の方の強みの発見 に注意して会話しようと思う。

## ②仲間の発表を聞いて気付いたこと


# 社内木鶏感想用紙

123回目

2024 年 6 月 24 日

6 月号

名前

タイトル: 人生のハンドルを握り扉を開けられるのは自分だけ

## ①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

まず最初に感じたことは、あずきバーや中華まんでは有名な井村屋の会長さんがバイトからのたたき上げ方だと知りとても驚きました。そして中島さんが生きて来られた時代は酷い女性軽視の時代だったと書いてありましたが、そんな時代の中で実績を出すことが出来た理由は大きく二つ有ったのだと思います。一つ目は生死にかかわる事故に遭い生きていることに感謝し亡くなられた方のためにも、精一杯努力して生きるという考え方を根底に持たれている事。二つ目はお父様・お客様・上司の方など素晴らしい方との素晴らしい出会いがあり、その方たちの言葉をしっかりと受けとめ、自分の物にされたからだだと思います。そんな中島さんが数々の試練を乗り越えることができたのは、何があっても前向きに捉える「開き直りの精神」、しぶとさに打たれ強さを持っていたからだと書かれています。私の一番苦手な事です。中島さんを見習っていきたいと思います。もう一つはタイトルにもなっていますが、「自分の人生のハンドルは自分しか握れないし、扉の鍵を開けられるのは自分だけ」と書かれています。まさに「自分の人生すべて自己責任」ということです。いい結果も、悪い結果も、自分が考え行動してきた結果、努力や怠慢の結果だだと思います。命が燃え尽きるその時まで、生きていることに感謝しながら、幸せになれるように努力し続ける事が大切なのではないかと感じました。

## ②仲間の発表を聞いて気付いたこと


# 社内木鶏感想用紙

2024 年 6 月 21 日

6 月号

名前

タイトル: 人生のハンドルを握り扉を開けられるのは自分だけ

## ①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

井村屋グループ会長の中島さんは致知を十年程購読されていると言われおり、インタビューの中で共感の持てる言葉や考え方が数々ありました。

経営方針として、先義後利(せんぎこうり)という言葉を紹介されていますが、社会の事を考えて義のある正しい道を優先して行う。すると利益は後からついてくるとあります。

弊社の意識と近い経営方針ですので致知で学んだ人間学の共有が出来ていると感じました。

もう一つ共感を持ったの言葉は、一人の百歩より百人の一步 という言葉です。

一人が一生懸命に百歩走っても、いつかは息切れしてしまう。それより百人がそれぞれ知恵を持ち寄って一步ずつ進む組織の方が強く継続性がありチームが団結できるとあります。

我が社では、朝礼の最後にみんなで” 船が出るぞ ファイト オー”と掛け声をかけます。

船は田中共栄商会の事で、皆で一隻の船に乗り力を合わせて進んでいこうという事であり一人だけ必死になって頑張っても船は真っすぐに進みませんが、スタッフ全員で同じ方向へ向かい力を出し合い助け合って頑張っていく事で明るい未来へ進んでくと思います。

人間学を学び実行し利他の心を持ち自然に行動する事を目標に引き続き致知を熟読していきたいと感じました。

## ②仲間の発表を聞いて気付いたこと


# 社内木鶏感想用紙

年 月 日

月号

名前

タイトル: 人生のハンドルを握り扉を開けられるのは自分だけ

## ①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

中島さんが体験した列車の火災事故。恐ろしい出来事です。

目の前に座っていた親子との和やかなふれあいの後の悲しい出来事。

この事故により断念してしまうしかなかった教師への夢。

どれだけ心にキズを負い、どれだけ心に負担がのしかかった事でしょうか。想像ができません。

ですが中島さんはお父さんから心強い言葉と思いをもらう事ができました。

「自分だけのプラス1を探しなさい。それがあれば必ず人の役に立つ。一生懸命生きていく事が亡くなった人への恩返しであり使命ではないか。」心にずしっとくる言葉です。

この言葉を胸に並々ならぬ努力をされてこられました。

アルバイト時代や管理職になってもひたすらに仕事を選ばずに前に進む中島さんの姿勢をみて

この人にはついていきたいと思わせ、この人にこそ任せられると感じるものがあつたからこそ

井村屋初の女性社長に選ばれたのではないのでしょうか。

自分の人生のハンドルは自分しか握れない。との事。

自分の人生の責任は自分にあるからこそ、うまくいかない事や大変な状況に陥ってしまった時でも

自分の手で探り、自分の足で進んでいけば乗り切った時には喜びを感じれるのかなと思います。